

専門部会（第2回）の意見概要について

（1） 人が輝くいばらきづくり専門部会（第2回）

日 時 : 平成27年5月21日(木) 午前10時～12時
 場 所 : 茨城県庁 災害対策本部室
 出席者 : 委員 17名ほか

【主な委員意見の概要】

- ・ 道徳・規範意識を「人としての生き方・在り方」という項目で括ってはどうか。
- ・ 若い人は記憶力は良いが考える力がない。「考え続ける教育」「思考力」が大切。
- ・ 子どもや大人に分けずに断絶のない教育が重要。生涯にわたって人間力を高める仕組みが必要。特に幼い頃から地域と関わりを持ち、交流することが大切。
- ・ 女性や障害者は当たり前の活動ができる手前にある。活躍はもっと先にある。
- ・ 女性が長く働ける環境づくりが大切。男性も含め30年後の働き方を考えるべき
- ・ 障害者にとって教育はあるが企業との繋がりはない。ミスマッチが起きている。
- ・ スポーツ振興では、オリンピックに向けた施設整備や選手育成という側面もあるが、健康増進という側面もある。
- ・ 科学の甲子園など科学分野の教育は充実している。情報発信が問題。
- ・ 財政的な理由などにより学ぶ環境にない子どもへの対応が必要。
- ・ 想像力や思考力を育てるために、子どもが美術館・地域の芸術や伝統文化と触れ合う機会を設けること、またそれらを繋げて地域の魅力としていくことが必要。

（2） 活力あるいばらきづくり専門部会（第2回）

日 時 : 平成27年5月20日(金) 午前10時～12時
 場 所 : 茨城県市町村会館 講堂
 出席者 : 委員 15名ほか

【主な委員意見の概要】

- ・ 県内でも大学コンソーシアムが動き出している。外から来た若者の目線は大切。
- ・ 学校で地元の産業についてももっと学ぶべき。
- ・ つくばの研究機関や研究者を使い切る発想が必要。サクセスストーリーを一つでも作る。研究機関も現場のニーズに合っていない研究をしている。

- ・海外で稼ぐというキャッチフレーズをどこかに入りたい。
- ・農業については販売・流通との繋がりが弱い。現場力を磨き、今やっていることが10年後の通用するののかという視点を加えたい。若手農業者の意識改革も重要。
- ・漁場となる海を開発とのバランスでどう守っていくか。環境との調和が大切。上手に持続性・再生産可能な環境づくりを進めていくべき。
- ・茨城の産業の最後のよりどころは、農林水産業・手工業・伝統工芸ではないか。
- ・林業は時代の流れのスピードについていけない状況にある。
- ・連携・融合・複合化がキーワード。科学技術と農業・医療が連携すべき。特にものづくりは重要なプラットフォームである。
- ・身の回りのこと（資源・強み）を知り尽くし、使いこなすことが重要。
- ・広域交通ネットワークも中小企業が使いやすいのかどうかの視点で考えるべき。
- ・人間の体で例えると科学技術は「知恵(頭脳)」, ネットワークは「血液」, イメージアップは「顔」である。ないもの考える妄想力・知恵を育てることが大切。

(3) 住みよいいばらきづくり専門部会（第2回）

日 時 : 平成27年5月19日(火) 午前10時～12時
 場 所 : 茨城県開発公社ビル 1-E会議室
 出席者 : 委員 15名ほか

【主な委員意見の概要】

- ・地域で育てる、地域で見守る社会づくりが必要。
- ・障害者など多様な人がいて社会が成り立っていることを認識することが重要。
- ・「みんなで創る」というのは、できることは自分での裏返しである。
- ・地域おける「さり気ない」見守りを作っていければ良い。
- ・女性や障害者は当たり前の活動ができる手前にある。活躍はもっと先にある。
- ・医師を地域で育てることが必要。それには働きやすい環境も重要。
- ・人の移動は分野横断的テーマ。公共交通と福祉は繋がっている。
- ・高齢者の交通事故・特殊詐欺対策が必要。県民挙げて取り組むことが大切。
- ・ボランティアなどの善意ある活動について報酬を支払う仕組みがあって良い。
- ・医療もICTを活用すると遠隔診療など訪問看護の課題解決の一手となる。
- ・学校の空き教室を高齢者向けサロンにするなど社会ストック活用も考えられる。
- ・農業法人における障害者雇用も考慮すべき。
- ・地域社会は可能な限り自分で賄えるエネルギー供給の仕組みがあった方がよい。